

日本セトロロジー研究会第 19 回大会開催に際し

日本セトロロジー研究会代表 山 田 格

日本セトロロジー研究会はまた金沢に戻ってきました。いわば研究グループ発足の決起大会のような会合がのとしま水族館などで開かれたのが 1988 年 12 月でしたか。ふと気がつくとなあれから 20 年、光陰矢のごとしの感を強くします。

あたかもセト研発足 20 年を祝うかのように、新潟の海に母子連れのオウギハクジラと思われるクジラが現れて大胆なブリーチングを繰り返した様が大原淳一さんのカメラに見事にとらえられました。

これまでのセト研の活動で、シンボル種たるオウギハクジラの生物学について、ストランディング個体から収集できる情報はじゅうぶんに収集できたと思われます。これは会員の皆さんをはじめ多数の方々の熱意と努力の賜物です。今後の課題は、個体の年齢査定、性状態、胃内容物、DNA などの基礎的な情報をふまえて、オウギハクジラの生物学を読み解く作業でしょう。世界のオウギハクジラ属の中で、南半球のミナミオウギハクジラ (*Mesoplodon grayi*) に次いで収集個体数の多いオウギハクジラですから、きちんとした成果を挙げるべくがんばらなければなりません。次の 10 年、あらたなる飛躍を目指しましょう。